

令和6年度教育課程編成に向けて

児童のよりよい学びのために



鶴ヶ島市立藤小学校

R5.2.4(R6.4一部改定)



令和6年度教育課程編成に向けて

児童のよりよい学び

【現状】

- ・学力調査結果
- ・社会の変化に伴う教育の変化

教職員の働く時間の確保

【現状】

- ・教職員の勤務状況
- ・若手教員の増加

令和6年度教育課程編成に向けて

現状

R5全国学力調査結果(6年)

平均正答数	本校	県	全国
国語	65	67	65.6
算数	59	64	63.2

- ▲上位層が少ない
- ▲無答率が高い
- 自己肯定感が高い
- ▲読書量が少ない
- ▲家庭学習の時間が短い

令和6年度教育課程編成に向けて

社会の変化に伴う教育の変化

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする。

(R3.1.26「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(中教審答申))

全ての子供たちの可能性を引き出す

「個別最適な学び」と「協同的な学び」の実現

令和6年度教育課程編成に向けて

「個別最適な学び」

子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援する
(指導の個別化)

子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する(学習の個性化)

より「個に応じた指導」を進める

令和6年度教育課程編成に向けて

「協同的な学び」

探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協同しながら、必要な資質・能力を育成していく

子供一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出していく

令和6年度教育課程編成に向けて

教職員の働く時間

- ・学校運営、行事等の諸会議
企画会、職員会議、生徒指導・教育支援委員会
- ・よりよい教育・指導力向上のための研修
- ・学年会や教科等部会の打合せ
教員5年目までの教員のスキルアップ
- ・生徒指導・教育相談ケース会議

藤小学校の
運営のために
必要な教育活動

令和6年度教育課程編成に向けて

R4の時間割

下校時刻は15:40

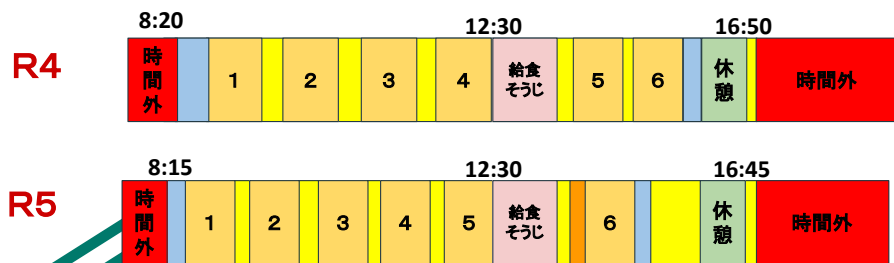
R4 3年1組の時間割

月	火	水	木	金
国語	算数	算数	算数	体育
算数	体育	理科	国語	国語
外国語	図工	理科	書写	算数
理音	図・国	国語	社会	国語
GET	社会	体育	道徳	学活
会議研修	国語	音楽		GET
	15:40	15:40	ク・委	15:40
			16:00	

令和6年度教育課程編成に向けて

教職員の働く時間

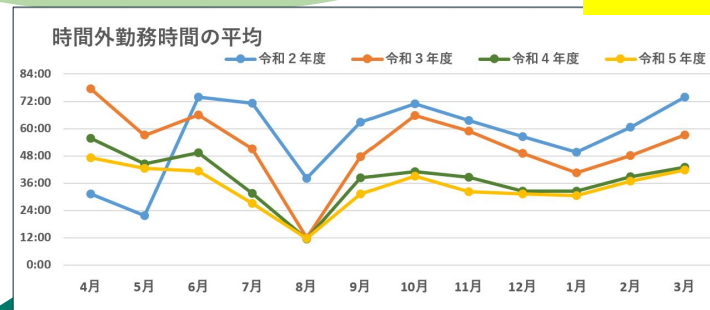
教材研究、教材準備、ノートやプリント、作品等の評価
テストの採点、提出物、宿題の確認、委員会活動、
生徒指導・教育相談 会議・研修、行事等の企画 等



令和6年度教育課程編成に向けて

教職員の働く時間の確保

行事・会議を精選
人的配置・支援等
ICT機器の導入・活用
工夫を重ねてきた成果



令和6年度教育課程編成に向けて

児童のよりよい学び

全ての子供たちの可能性を引き出す、
「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の実現

教職員の働く時間の確保

午前中5時間40分授業＋スキルタイム＋放課後のゆとり

令和6年度教育課程編成に向けて

児童のよりよい学び

教職員の働く時間の確保

継続点

- 午前中5時間40分授業とします。
- スキルタイムを設定します。
- 午後の授業を1コマとし、下校時刻を早くします。

午前中5時間40分授業

児童のよりよい学び

実践校 目黒区、横浜市、福井市
米原市、鳥取市、つくば市等

目黒区では 午前5時間制を導入しています

教育委員会では、各小・中学校の創意あふれる学校づくりを進めています。目黒区の特徴として実施している二期制や夏季休業期間の短縮に先立って導入されたのが午前5時間制です。導入から17年目を迎えた現在では、7つの小学校（中目黒小学校、駒場小学校、月光原小学校、高森小学校、向原小学校、原町小学校、中級小学校）に広がっています。午前5時間制は、一単位時間を40分間とし、午前中に集中して学習することを通じて学力の定着を図り、午後の時間を余裕を生み出し、各校の実態に合わせて活用することを特長としています。平成29・30年度の2年間、文部科学省による調査研究の委託を受け、午前5時間制の有用性について研究しています。

目黒区立小学校の午前5時間制の魅力

朝会	8:10~8:15	●生活習慣の確立
朝読書	8:15~8:25	●読書の習慣の確立



目黒区の実践

#学校教育を考える

Before	After
8:25 8:45 1時間目	8:25 8:45 1時間目
9:35 2時間目	9:35 2時間目
10:45 11:35 3時間目	10:45 11:35 3時間目
12:20 4時間目	12:20 4時間目
13:40 給食 5時間目	13:40 給食 5時間目

横浜市の実践(NHKで放送)

午前中5時間40分授業

児童のよりよい学び

文部科学省の動き

小中学校の授業を5分短縮、年間で計85時間を弾力的に運用へ...各学校の裁量で自由に

2024/02/10 09:00

この記事をストックする

文部科学省は小中学校の授業時間を見直し、学校の裁量を拡大する方向で検討を始める。授業時間を5分短くし、短縮分を各校が自由に使えるようにすることなどを想定している。文科省は次期学習指導要領への反映に向け、今年秋にも中央教育審議会に諮問する見通しだ。



小中学校の授業時間は、学校教育法施行規則に「標準例」として示されている。現在は1コマあたり小学校45分、中学校50分で、文科省はこれを小中とも5分短縮して小学校40分、中学校45分に変更することなどを視野に入れている。変更されれば、1958年の規則明示後、初めてとなる。

一方、年間の授業時間数は変えない方向だ。現在、小学校の4年以上と中学校は1015コマで、45分授業の小学校では年間約760時間、中学校は約845時間が授業に充てられている。授業が5分短くなれば、小学校、中学校ともに約85時間（5075分）の差が生まれ、これを各校が弾力的に運用できるようにする。

背景には、子どもの学力や教育環境の地域間格差が広がっていることがある。各校が画一的な授業を横並びで実施しているだけでは対応が難しく、裁量拡大によって学校現場の創意工夫を促す狙いがある。思考力育成を目指した探究活動や、基礎学力定着のためのドリル学習など各校がそれぞれの実態に応じて指導に生かすことを文科省は期待する。

年間の授業時間短縮イメージ ※小学校高学年の場合

現在

45分×1015コマ

5分短縮

40分×1015コマ

学校の裁量時間(85時間程度)

次期指導要領は2027年に改定される見通し。すでに横浜市などでは小学校の一部で40分授業を行っており、文科省はこうした先行例を検証しながら、授業時間のあり方について検討を本格化させる方針だ。

午前中5時間40分授業

児童のよりよい学び

- ・集中して学習できる午前中に5コマ行うことができる。
- ・40分授業で実施し、それによって捻出した授業時間を活用し学力向上を図る。
(振り返りや習熟、事前学習、発展学習等)
- ・授業カットをしなくて良いので、時数確保ができる。
給食のない日も4コマの授業(従来は3時間で下校)
研修や会議の日もカットせずに6コマの授業
(従来は5時間にする)

午前中5時間40分授業

児童のよりよい学び

- 40分授業を行うためにICT機器の活用
資料提示、課題配付、集約、提出が容易
学び合い学習の推進
一斉指導⇒個別最適な学び、協働的な学びの実現
授業改善の推進
課題や指導内容を明確にし、授業の展開を工夫する

スキルタイムの活用

児童のよりよい学び

- ・振り返りや習熟、事前学習、発展学習に活用
- ・40分授業とスキルタイム20分間を組み合わせ、60分授業も実施できる柔軟な日課として活用する。
- ・一人一人が大切にされ、一人一人が輝く教室の実現(特別活動)

全ての子供たちの可能性を引き出す、
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

放課後のゆとり

児童のよりよい学び

- ・児童の放課後の過ごし方にゆとりができる
(家庭学習や自分の時間)

教職員の働く時間の確保

- ・研修・会議、教材研究の時間の確保
- ・若手教員の指導力向上
- ・生徒指導対応

R5年度実施の課題を踏まえた変更点

休み時間

- ・始業を8:15に5分繰り上げ、3校時と4校時の休み時間5分間を10分間とした。
(R5.9)

下校時刻

- ・一時預かりの時間を15時30分までとした。
(R5.2)
- ・ばらつきがあった低学年の下校時刻をそろえた。
(R6.4)

たてわり活動

- ・たてわり活動を金曜日に変更した。
(6年生の負担軽減のため、クラブ委員会の日と分けた。)
(R6.4)

※R6年度も試行錯誤しながら、よりよい教育課程について検討してまいります。

児童のよりよい学びの実現



一人一人が輝き笑顔があふれ、
夢と自信と誇りを育てる学校

